

製品名: Lck ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13254**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	LCK
別名	LCK; Tyrosine-protein kinase Lck; Leukocyte C-terminal Src kinase; LSK; Lymphocyte cell-specific protein-tyrosine kinase; Protein YT16; Proto-oncogene Lck; T cell-specific protein-tyrosine kinase; p56-LCK
遺伝子 ID	3932.0
SwissProt ID	P06239
免疫原	抗血清はヒト Lck 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210

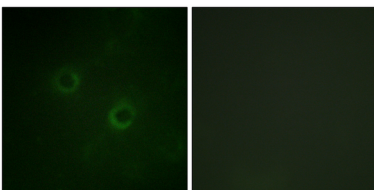
背景

この遺伝子は、Srcファミリーに属するタンパク質チロシンキナーゼ (PTK) の一種です。コードされるタンパク質は、発達中のT細胞の選択と成熟において重要なシグナル伝達分子です。ミリスチル化およびパルミチル化のためのN末端部位、PTKドメイン、そしてそれぞれリン酸化チロシン含有モチーフおよびプロリンリッチモチーフとのタンパク質間相互作用を媒介するSH2ドメインおよびSH3ドメインを有しています。このタンパク質は細胞膜および中心体周囲小胞に局在し、CD4やCD8などの細胞表面受容体やその他のシグナル伝達分子に結合します。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシングバリエントが報告されています。[RefSeq提供、2016年8月]、触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。、疾患: 白血病ではLCKに関連する染色体異常が発見されています。転座 t(1;7)(p34;q34)とTCRB。、ドメイン: SH2ドメインはSQSTM1との相互作用を媒介します。相互作用はSer-59のリン酸化によって制御されます。、酵素制御: チロシンリン酸化によって阻害されます。、機能: 胸腺における発達中のT細胞の選択と成熟、および成熟T細胞の機能に不可欠な役割を果たすチロシンキナーゼ。CD4およびCD8表面受容体の細胞質部分と恒常的に関連しており、T細胞抗原受容体(TCR)に関連するシグナル伝達経路で重要な役割を果たします。TCRがペプチド抗原に結合したMHC複合体と会合すると、CD4およびCD8がそれぞれMHCクラスIIおよびクラスI分子と相互作用しやすくなり、会合したLCKがTCR/CD3複合体の近くにリクルートされます。次に、LCKはTCRガンマ鎖およびCD3サブユニットの細胞質末端にある免疫受容体チロシン活性化モチーフ(ITAM)内のチロシン残基をリン酸化して、TCR/CD3シグナル伝達経路を開始します。さらに、他の受容体分子によるシグナル伝達にも寄与します。CD2の細胞質末端と直接会合し、CD2分子が関与すると、LCKは過剰リン酸化および活性化を受けます。また、T細胞の増殖応答を制御するIL2受容体連動シグナル伝達経路でも役割を果たします。IL2がその受容体に結合すると、LCKの活性が高まります。胸腺細胞の発達のあらゆる段階で発現し、プレTCRと成熟 $\alpha\beta$ TCRの両方によって制御される成熟イベントの調節に必須である。、質量分析: PubMed:11840567,オンライン情報: Lckエントリー,PTM: Tyr-394がリン酸化され、酵素活性が上昇する(類似性による)。Tyr-505がリン酸化され、酵素活性が低下する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Tyrタンパク質キナーゼファミリー。SRCサブファミリー。、類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 1つのSH2ドメインを含む。、類似性: 1つのSH3ドメインを含む。、細胞内位置: 脂質ラフト内に不活性な形で存在する。、サブユニット: CD2、CD4、CD5、CD8、CD44、CD45、CD122などの細胞表面受容体の細胞質ドメインに結合します。また、PI4K、VAV1、RASA1、FYBなどのエフェクター分子や、CDC2、RAF1、ZAP70、SYKなどの他のタンパク質キナーゼにも結合します。SH3ドメインを介してTリンパ球のホスファチジルイノシトール3'-キナーゼ(PI3K)に結合し、SH2ドメインを介してKHDRBS1/p70のチロシンリン酸化型に結合します。SH3ドメインを介してHIV-1 Nefに結合します。この相互作用はチロシンキナーゼ活性を阻害する。SQSTM1と相互作用する。リン酸化LIME1と相互作用する。CBLBおよびPTPRHと相互作用する。、組織特異性: リンパ系細胞に特異的に発現する。、

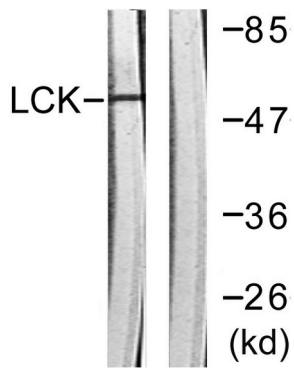
研究分野

ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T細胞受容体;原発性免疫不全;

画像データ



Lck抗体を用いたCOS7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



Lck抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。